未来へつなぐ

今こそ、とちぎ広域営農システムづくりをすすめよう！

将来の地域の担い手と農地このままで大丈夫？

後継者もいないし、
10年後は、間違いなく
担い手いないよなぁ…

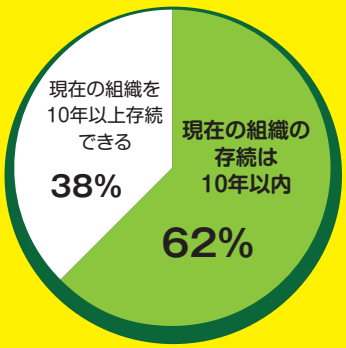
- 自分は、あと何年農業を続けていけるかな
- この先、耕作をやめてしまう仲間が増えていきそうだな
- いざという時、だれか農地を引き受けてくれる人はいるのかな

だから今 5年先、10年先の地域農業の担い手は誰??

地域農業を維持するためには、
集落の範囲を越えて農地を引き受ける担い手と
それを支える多様な人材が参画する新たな取組
「とちぎ広域営農システム」を考えてみませんか?

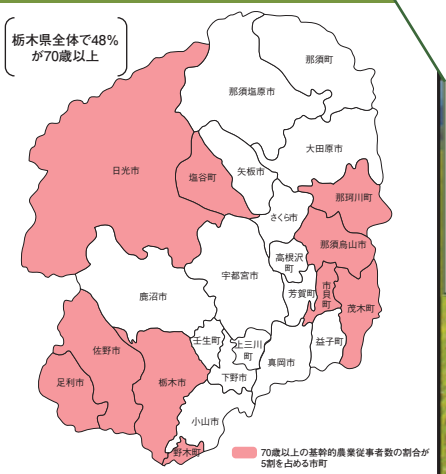
集落営農組織は存続の危機

10年以内に62%の
集落営農が解散の危機



※集落組織アンケート（経営技術課）

70歳以上の基幹的農業従事者数の割合が
5割を超える市町

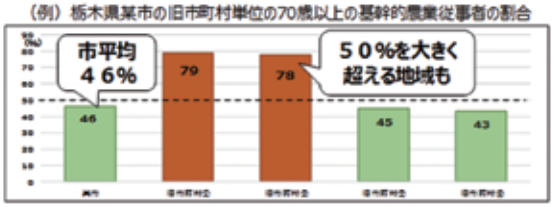


※2020農林業センサス（速報値）より

▶5割を超えていない市町でも安心はできません！

旧市町村単位の**70歳以上**の基幹的農業従事者数の割合が**50%を超える**地域もあり、市町内でも大きな開きがあります。

（例）栃木県某市の旧市町村単位の70歳以上の基幹的農業従事者の割合



→自分たちの地域や集落の状況に合った仕組みを考えることが大切です

危機的状況を乗り越えるための
仕組みづくりが必要です！

栃木県・栃木県担い手育成総合支援協議会

Q とちぎ広域営農システムとは？

A 集落の範囲を超えて広範囲に農地を引き受ける**担い手**と、
農村環境を保全する**多様な人材**の参画により、
地域の力を集結して営農を支える仕組みづくりです。

地域農業の将来を描く、人・農地プランの話し合い

地域の力を結集した“とちぎ広域営農システム”

〈集落の範囲を超えて広範囲に農地を引き受ける担い手〉

Case1
一定の担い手がいる地域
大規模経営体の育成・法人化

Case2
担い手の高齢化が進んでいる地域
集落営農組織の合併・連携

Case3
担い手が確保されていない地域
市町・JA等の出資型法人の設立
企業の参入

定年退職者　農業者　地域住民　ボランティア

〈農村環境を保全する多様な人材の参画〉

▶ 多面的機能支払や中山間地域等直接支払など各種制度も有効に活用

今こそはじめよう！
地域に合わせた農業の維持のための**広域営農システム構築**

➤ お近くの県農業振興事務所にお問い合わせください。